

第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ、カモシカ、イノシシ）（案）に関する委員の意見と回答及び対応

1 環境審議会意見と対応

委員名	該当頁	意見	対応
小杉委員	ニホンジカ 5	県境で高密度地の出現とあるが、隣接県との連携はどうなっているのか。	(当日回答) 神奈川、山梨とは協議しているが、愛知県とはできていない。 (対応) 愛知県とも情報を交換、共有し、対策の進め方などについて協議する場を設ける。
千賀会長	ニホンジカ 8	市町との関係はどうか。県が是非主導的な立場で実施して欲しい。	(当日回答) 市町では特措法に基づき、被害防止計画を立てている。 県の計画では、市町単位で管理をしており、各市町と毎年面談を行い、情報共有と調整をしている。 (対応) 今後も市町との面談を継続するなど十分に調整を行い、被害防止計画が特定計画と整合性を欠くことがないように確認しながら、各計画に基づいて対策を進める。
牧野委員	ニホンジカ 5, 14 イノシシ 15-16	捕獲者の育成が重要。具体的にどのような形で捕獲者の育成を実施しているのか。	(当日回答) 人材育成は喫緊の課題であり、捕獲者のレベルに併せた研修会を毎年実施している。今年度は、免許取得促進のため、学生向けの予備講習会を開催した。
名倉委員	全種 —	防除に日本古来の方法を使うなど工夫してはどうか（綿の栽培、など）。柵にもお金が掛かり過ぎる。	(対応) 担当部局に伝える。
杉山委員	全種 — カモシカ —	県内 J A の 12/17 箇所から鳥獣被害対策の要望がある。国、県、市の補助事業で柵の整備を行ってきたが、老朽化に伴う破損が起きており、修繕に対応する補助制度がないため、対応に苦慮している。 カモシカが下方でも出ていると聞くので実態をみて欲しい。	(対応) 補助制度についての要望は、担当部局に伝える。 カモシカについては、市町との連携を強化し、一層の情報収集に努める。

2 鳥獣保護管理部会意見と対応案

委員名	該当頁	意見	対応
名倉委員	ニホンジカ 6	被害対応として動物を殺すことを問題とっていたが、伊豆でシカによって枯れ木が出る被害をみて大変だと思うようになった。今回シカの特定計画の優先目的を生態系への影響軽減としたことについては非常に評価している。これを県民に環境問題の一つとして訴えていけば、理解が得られると思う。 捕獲は命をいただくことであり、地元で採れる資源として利活用について、計画に記載することはできるか。	(当日回答) 計画書の P55 に捕獲個体の有効利用についても記載をさせていただいている。現在十分に活用できているわけではないが、特措法の改正の中でも重要視しており、部局を超えて検討していく。
小杉山 部会長	ニホンジカ ー	利用という点では、常葉大学では、毎年シカを持ち込み解体の実習をしている。教育での利用は結構ある。シカの角、皮などいろいろ役立つ素材である。	
小泉委員	ニホンジカ 2	生息数が減少傾向になった意義は非常に大きい。捕獲圧が落ちないように、特に財政面でできなかつたということがないようお願いしたい。また、このように減ってきた時に捕獲以外の被害対策を行うと非常に効果が大きく出ることがあるので、被害対策を実施している部局の方は是非対策を強く打ち出していきたい。	(対応) 担当部局に伝える。
澤井委員	ニホンジカ 41-48	富士川以西地域の管理区域が広いため、対策の視点がぼやける可能性があるのではないかと。将来的にはもう少し細かく地形で分けるなどしてもいいのではないかと思うが、そのような予定はあるか。	(当日回答) 地域個体群区分に加え、市町単位のユニットを設けて管理を行っている。富士川以西地域は、広大なため、生息状況や捕獲者と連携しながら状況を把握している。局所的に生息密度が高いところが現れることもあり、必要に応じて管理の対応を変えていくことも今後検討していく。

委員名	該当頁	意見	対応
名倉委員	ニホンジカ 12	説明スライドP16にある捕獲等認定事業者はどのくらいいるのか。何をしているのか	(当日回答) 平成26年の鳥獣保護管理法改正の際に新たに導入された制度で、一定の条件を満たす捕獲事業者を県で認定しており、県内には6事業者いる。県の猟友会もその一つであるが、会員全員が認定事業に従事できるわけではなく、一定の研修を受講した者など、選抜メンバーを登録している。 認定事業者には、県の管理捕獲事業のうち捕獲困難地の捕獲を、入札により委託契約を結び、捕獲を実施してもらっている。
近藤委員	ニホンジカ 45	富士川以西地域のシカの分布について、里山の方で密度が高くなっている理由はわかっているのか。 鳥の視点で考えると生態系の変化等の影響を受けているようにも思うが、どうか。	(当日回答) 調査の結果を見て、分布の状況を認識している。あくまで想定であるが、中山間地域の環境の変化が影響を及ぼしている可能性もある。
小杉山 部会長	ニホンジカ —	生態系の変化という点では、植生の状況とよく見比べれば少しわかるかもしれない。	

3 鳥獣保護管理部会後、個別に各委員からあった質疑や意見

委員名	該当頁	意見	対応
小泉委員 12月8日	イノシシ 14	イノシシの目標が低すぎるのではないか。	(当日回答) 農業部局と調整し、豚熱の影響以前の被害金額の減少のトレンドを参考に定めている。 近年、被害額の減少幅が小さくなっており、あまり大きな目標を掲げても、実際の対応が難しい状況となっている。
金澤委員 12月13日	イノシシ —	今年度のイノシシの状況であるが、どの地域も猟期に入っても姿が少ないという報告がある。	